

これからの地域づくりを考える

市民検討会議ワークショップ

幸区 開催結果概要

◎開催日時 2018(平成30)年9月16日(日) 13:30~16:40

◎開催場所 新川崎タウンカフェ

◎参加者 25名 他30名(事務局、コンサルタント、傍聴者等)

◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長

ワークショップの目的と進め方

グループワーク

- ・自己紹介
- ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
- ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おう

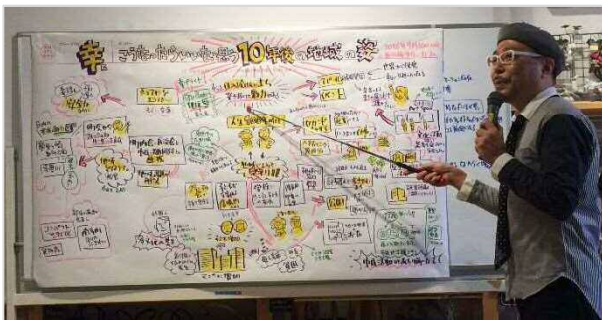
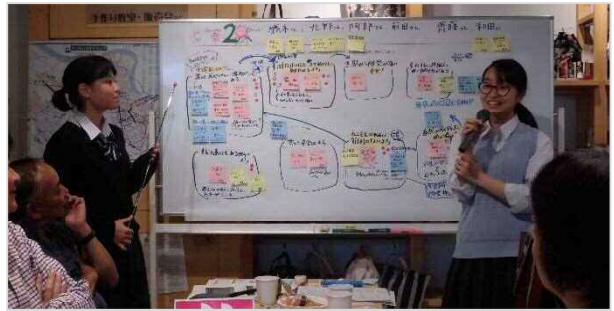
グループワークの発表

閉会あいさつ 石渡幸区長

◎出された主な意見

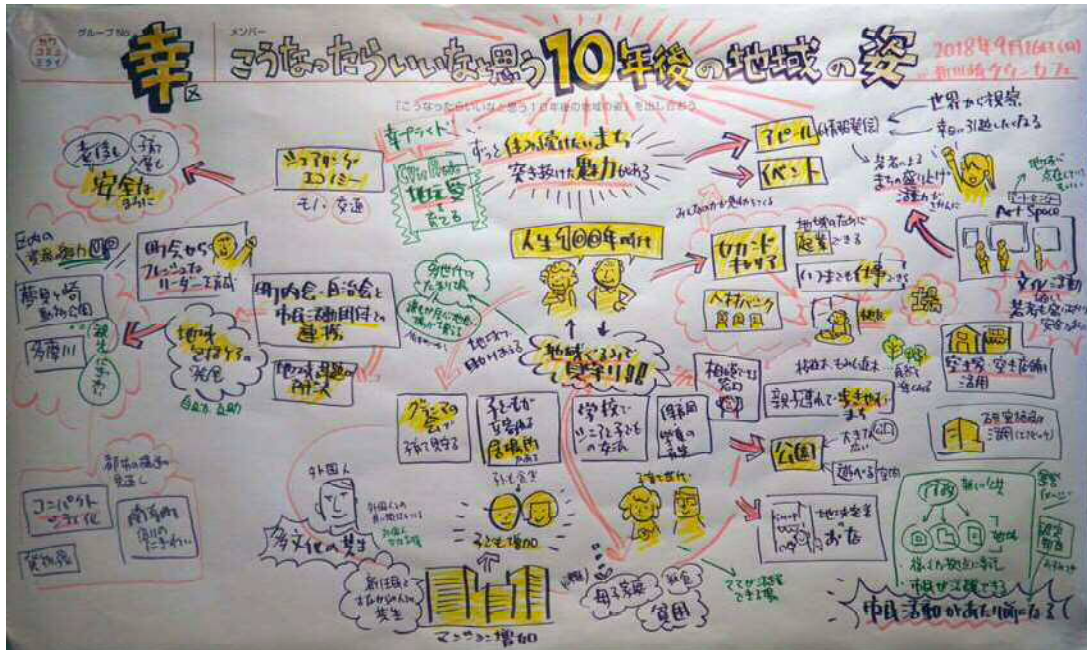
- ・ずっと住みたくなる突き抜けた魅力のあるまち(地元愛を育む)
- ・人生100年時代、地域ぐるみで見守りを。子育て層も老後も安心して暮らせるまち
- ・人材バンクによるセカンドキャリア支援
- ・新しい公共、公益、共生のあり方を考えよう
- ・市民活動が当たり前になるまち
- ・町内会・自治会と市民活動団体が連携して、地域課題の解決や地域包括ケアシステムの発展へ
- ・多世代が利用できる地域の核となる居場所のあるまち
- ・新住民と旧住民の共生、多文化共生
- ・区内の資源(夢見ヶ崎動物公園や多摩川など)の魅力 up
- ・若者によるまちの盛り上げ活動が盛んなまち(YouTube、SNS などによる情報発信)





市民検討会議ワークショップ（幸区）のまとめ

4つのグループのPoint



幸区では、「ずっと住みたいまち」（＝地元愛を育てる「幸プライド」）が各グループに共通する理想の10年後の未来の姿として挙げられた。そのためには、「**突き抜けた魅力がある**」ことが大事で、その魅力のアピールや、区民の力で魅力をつくるイベントの開催等を通して、世界中から視察が来たり、住みたいまちに選ばれたり、ということにつながるイメージである。

夢見ヶ崎動物公園や多摩川など、既存の資源の一層の魅力アップとともに、桜並木やもみじ並木といった四季を通して自然が楽しめて、親子連れで安心して歩きたくなる道が生まれ、大きな公園、遊べる空間に恵まれることも将来像として挙げられた。

また、高校生や、(自称)地域アイドルなど、他区と比べて今回若者の参加が多いのが特徴的であったことから、**若者による地域の盛り上げがさらに活性化すると**、地域の魅力がさらに高まるのではという意見が印象的だった。具体的には、アートをはじめとする文化活動等を通じて若者が活動を発信できる場所や地域で活動するチャンスが増えるきっかけ等があると良いというアイデアが出た。

また、「**人生100年時代**」をキーワードに、地域でセカンドキャリアが持てて、いつまでも働き続けられる地域が、より豊かなコミュニティのあり方として挙げられた。そのためには、**人材バンクの立ち上げや、空き家、空き店舗や研究施設を活用した、仕事をするための拠点づくり**が必要であるとされた。

「**地域ぐるみでお互いに見守るしくみ**」というキーワードも挙げられた。これはマンションの増加で子どもは増えている一方、貧困や母子家庭、孤食が課題として挙げられていることが背景となっている。**地域レベル**では、区に長く住んでいる人から多文化の

人まで誰もが立ち寄れるたまり場や、子ども食堂のような子どもが立ち寄れる居場所、「グランマの会」という子育てを卒業したシニアが子育てを見守るしくみ、学校でシニアと子供が交流する機会、保育園・学童保育のさらなる充実、地域密着のお店の充実などが提案された。**区域レベル**では、行政に限らず様々な市民団体なども活動に使える「**新たな公共施設**」や**相談できる窓口**のあり方が提案された。

コミュニティのあり方としては、町内会・自治会と市民活動団体との連携が進み共に地域の課題解決が進められること、町内会・自治会にはフレッシュな次世代リーダーが育成されること、地域包括ケアシステムが発展し自助・互助が進むこと、市民活動が当たり前になっているまちであることが挙げられた。活動団体のお墨付きになるような**認定のしくみ**や、地域の様々なスペースには、**市民が施設運営に関われるような新しい公共のイメージ**が挙げられた。

まち全体の話として、まちのコンパクトシティ化や、モノや交通をシェアするシェアリングエコノミーの考え方などのキーワードも出された。

「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」を出し合おう

ずっと住み続けたいまち、突き抜けた魅力がある

- アピール（情報発信）
 - 世界から視察があるようなまち
 - 幸区に引っ越したくなる
- イベント
- 若者によるまちの盛り上げ活動が盛んに
- 文化活動を通して若者も盛り上がり、安全なまちに
 - アートセンター（Art Space）
 - 地域に点在していてもいい

人生 100 年時代

- セカンドキャリア
 - 地域のために得意なことを生かして起業できる
 - いつまでも仕事できる
 - 人材バンク
 - 拠点がある
- みんなの力が魅力をつくる
 - そういうものがあることでより豊かな人生 100 年の時代になる

場・拠点

- 空き家・空き店舗の活用
- 研究施設の活用
 - エアビック等
- 新しい公共の運営イメージ
 - 行政だけでなく市民も活用する新しい公共
 - 様々な拠点に委託
 - 認定制度、お墨付き



- 市民活動があたり前になる
 - 若者が自分たちの力で地域を盛り上げるようになる

地域ぐるみで見守り

- マンションの増加
 - 人口や子どもが増加
 - 一方で、母子家庭、孤食や貧困などが課題
- ＜地域で助け合える＞
- 多世代のたまり場
 - 誰もが居心地良い場が増える →南幸町にも
- 新住民と昔ながらの人との共生
- 多文化の共生
 - 外国人との良い関係を作る
 - 外国人女性支援
- グランマの会が子育てを見守る
- 子どもが立ち寄れる居場所がある
 - 子ども食堂
- 学校でシニアと子どもの交流
- 子育て世代・ママが活躍できる場
- 保育園・学童保育の充実
- 相談できる窓口がある

親子連れで歩きやすいまち

- 公園
 - もっと大きな広い公園があるといい
 - 遊べる空間なども
- 自然を楽しめるまち
 - 桜並木やもみじ並木など
- 地域密着のお店がある

町内会・自治会と市民活動団体との連携

- 地域課題の解決

- 町会からフレッシュなリーダーを育成
 - 町会・商店街から地域課題解決の担い手を
- 区内の資源の魅力を UP
- 観光・にぎわい
 - 夢見ヶ崎動物公園
 - 多摩川
- 地域包括ケアシステムの発展
 - 自助、互助

都市構造の見直し

- コンパクト・シティ化
- 貨物線
- 南幸町側のにぎわい

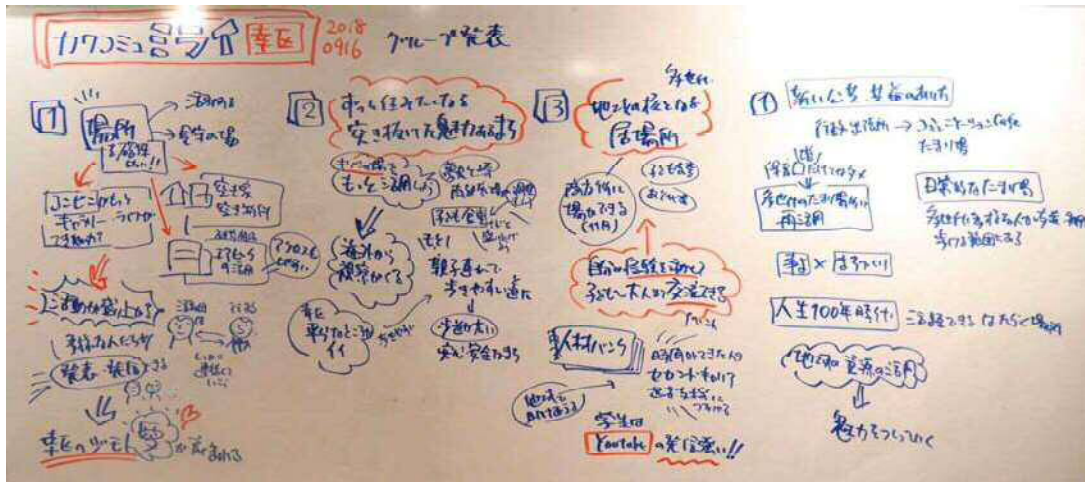
シビックプライド：幸プライド

- 地元愛を育てる

その他

- シェアリング・エコノミー（モノ、交通）
- 安全なまちに
 - 老後も子育て層も

グループ発表



1 グループ

- 場所を確保したい
 - 活動する
 - 見守りの場
- コンビニがもっとギャラリー・ライブができないか？
- 空き家・空き物件
- 研究施設エアビックの活用
 - アクセスもしやすい
- 活動が盛り上がる
 - 活動団体と行政がしっかり連携していこう
- 多様な人たちが発表・発信できる
- 幸区の地元愛が育まれる

2 グループ

- ずっと住みたくなる突き抜けた魅力あるまち
- 既存の場をもっと活用しよう
 - 夢見ヶ崎動物公園
 - 南部市場の調理機能

→子ども食堂などを盛り上げよう

- 海外から視察がくる
- もっと親子連れで歩きやすい道に
 - 歩道が広い
 - 安心・安全なまち
- 幸区は平らなところがイイ
 - 歩きやすい

3グループ

- 地域の核となる多世代の居場所
 - 子ども食堂
 - 遊び場
- 商店街にできる新たな場の活用
 - 11月に新しくオープンするシエルの活用
- 自分の経験を活かして、子どもから大人まで交流できるイベント
- 人材バンク
 - 時間ができた人のセカンドキャリア
 - 起業支援につながる
- 地域で助けあえる
- 学生は SNS や YouTube の発信が強い！

4グループ

- 新しい公共・共益のあり方
 - 行政出張所 →コミュニケーション・カフェ、たまり場
- 日常的なたまり場
 - 多世代・多様な人が交流・利用
 - 歩ける範囲にある
- 多世代のたまり場として再活用
 - 保育園を増やすだけではダメ